

## 1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期指標】

目標値：国語・・・95以上、算数・・・100以上

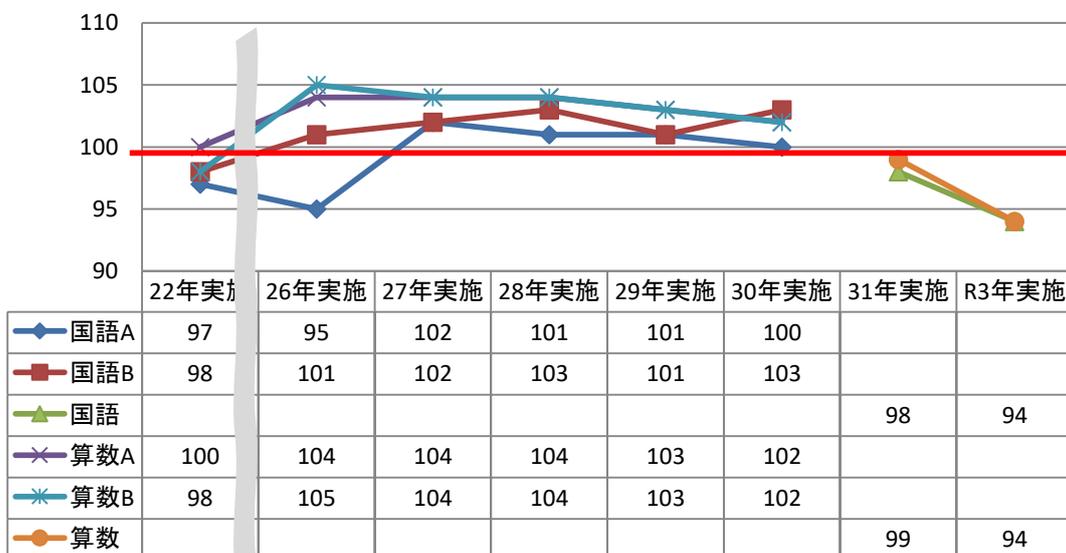
## 3.指標に向けての取組

・課題である読解力をつけるため、主体的な学習を目指す授業改善(子どもの課題追求・学びの振り返り)に取り組む。  
 ・学力差に対応し、きめ細かく丁寧な繰り返しの指導を行う。

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	94	94
嘉麻市	95	96
全国	100	100

## 推移



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

#### 5.各学校における分析

- 国語・算数ともに目標値に達していない。
- 記述式の問題に課題が多い。
- 国語は「目的に応じ、文章と図表を結び付けて、必要な情報を見付ける。(記述)」と「目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約する。(記述)」に特に課題がある。
- 算数は「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて面積の求め方と答えを記述できる。(記述)」に特に課題がある。
- 日常生活でなじみのある内容の問題と比べ、説明文など初めて出会う事例を含む内容は正答率が低い。

#### 6.各学校における今後の取組

- 本校の学力の推移、正答率の低かった問題の内容・趣旨などの共通理解を図り、学力向上に向けた取組の改善・精選を行う。
- 校内研究を中心として「書く活動ポイント9」を活用し、授業の中での思考を伴う書く活動の位置づけに努める。
- 児童が落ち着いて学習に取り組むことができるための環境づくりを行う。
- 特に学力の個人差が大きい学年では、算数科において複数体制での指導を行う。
- 特にC・D層の児童の基礎学力の定着に向け、「未来への一歩」を活用した全校での取組を実施する。

#### 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。
- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるための短期スパンのPDCAサイクルについて指導・助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 同一集団の学力や学力層の推移に着目しながら、学力向上策の評価・分析を行い取組の検証改善を図るように指導・助言する。
- 校内研修や学校訪問において、「書く活動ポイント9」の活用を促す等、思考を伴う書く活動の徹底指導を図るように指導・助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導・助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての交流や指導・助言を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。